

# 平成29年度 社会福祉法人登別さいわい福祉会 事業報告

## 1. はじめに

平成29年度4月1日より、法人経営の見直しや運営の透明化、地域における公益的な取り組みを責務とされた社会福祉法人制度改革が施行されました。これにともない、評議員会や理事会の役割がより明確化されたことで、ますます透明性のある安定した事業運営をしていかなければならないと感じているところです。

さて、平成29年度は、6月に法人、就労継続支援施設月とらいおんの10周年記念事業そして10月には生活介護事業所「サポートセンター心愛」の開設という事業がありました。10周年記念事業は、約100名の参加をいただき盛大に執り行われました。

サポートセンター心愛については、(株)上田商事様がホテル平安横で開設していた生活事業所「みなすぼ登別」を廃止するという話しから、通所していた利用者の行き場が無くなること、月とらいおんの利用者に就労Bでは本人負担が大きく、生活介護事業所利用で基本的な生活習慣等や生産性重視でない環境での作業に関わることに重点をおいた利用者さんもおおり、生活介護事業の検討をしていた経緯から事業を引き継ぐ形で開設しました。

共同生活援助事業では、女子のGHを新規に建てて頂き、GHは男性棟3カ所、女性棟1棟の計4カ所で定員24名となりました。

最後に平成29年12月11日深夜に本体施設及びうどん店に於いて窃盗事件が発生し、それぞれの裏窓の破損とうどん店のレジ窃盗の被害がありました。セコムへの報知機が感知し警察が到着する5～6分程度の犯行と思われますが、施設開設以来初めてのことで、改めて防犯等の対策をこうしなければならぬと思います。

## 2. 法人

平成29年度は、新規事業として生活介護事業所を平成29年10月開設しましたので、就労継続支援B型事業、共同生活援助事業の合わせて3事業の運営を行ってきました。就労Bの月とらいおんから心愛への移動もあり、月とらいおんとしての事業収入は減となりましたが、心愛の生活介護事業としての収入が増となっていること、平成30年3月までは家賃が無償となっていること等を合わせて、年度途中からの事業開始ではありましたが、全体としては安定した運営となっています。社会福祉法の改革により法人体制も変わりましたが、役員等の変更もなく引き続き役員への承諾を頂いたことで、設立当初からの法人理念に沿った各事業の運営を行ってきたところです。

### 法人経営機能の充実

法人そして月とらいおんの10年という節目を多くの人達でお祝いをして頂き、改めて10年という年月の重さを感じるところでした。また、何度も出ていますが生活介護事業所の開設は、就労Bにいる大半の利用者が対象となることから、今後においては主流となる

事業に成長していくことになると思われるので、早々にハード面整備の準備をしていく必要があると思います。また、利用者の高齢化や重度化に対応したGHの整備も併せて行うことも必須で、利用者の将来を見据え安定した生活及び日中活動ができることで、より安定した運営がなされものと考えています。

### 事業経営の展望

効率的・安定的な経営基盤の確立を上げていきましたが、なにより職員の確保が重要課題となっています。安定した職員体制を築いていかなければ一貫した支援はできないと思っています。施設整備計画では、生活介護事業所が賃貸ではありますが開設できました。就労の新規事業は、水耕栽培を約1年半かけて特に冬の対策について色々と試行錯誤してきましたが、なんとか目処が立ちましたので、栽培キットを増やして生産性を高めていきたいと思っています。また、生協の地元野菜として販売できるよう契約もできたことで、販売先に苦慮することもなくなり、これからはいかに安定した生産を確保できるのか検討を重ねて地元野菜として確立していきたいと思っています。

### 支援サービスと技術の向上

職員をそれぞれのスキルに合わせ、研修会に参加させてきています。特に虐待研修につきましては、機会があるごとに職員を研修に参加させ、支援会議等で伝達研修としても実施しています。

### 業務運営体制

職務分掌にもとづく各役割を明確化するともに職務手当の支給をすることで職務の責任体制の確立を図っています。また、業務の効率や省力を図るべく定時の出退勤を実践しておりここ数年で定着しつつあります。また、事務業務が多くなってきたためパート職員1名を増員しています。

### 業務の円滑な推進

管理職会議につきましては、随時としていしましたが、毎月の各事業所の定例会議の中で随時打合せをすることから緊急以外は開催していません。H29年度については開催していません。

### 施設整備等及び環境整備

他の整備事業（心愛の入浴設備等）の関係から次年度以降に検討していきます。

### 人材の育成と確保

年度内において男性職員3名を新規採用したことで、男性職員の体制が整いつつあります。しかし、新卒での応募はありませんでした。これからも、随時職員を確保しつつ、体制作りを推し進めていきたいと思っています。

## 防災関係及び地域との関係

火災のほか、最近の異常ともいえる自然災害を想定した定期的な訓練を実施しています。地域との関係は、GHが中心になって連携していけるよう日々の意思疎通を大事にしていかなければならず、機会をみつけては関係保持をしています。

### 3. 就労継続支援施設月とらいおん（就労継続支援 B 型事業）

#### 重点目標について

H29年度は、多様化する利用者に適切な支援を図るべくスタートしましたが、年度途中での生活介護事業所「サポートセンター心愛」の開設にともない、車イスの利用者を中心に数名の事業所移動等があり職員配置も整理出来てきたことから、特に畑の体制を本来の目的である就労の場としての作業を通じて、知識・能力の向上を図るべく3科5作業体制で運営してきました。前年度より始めている水耕栽培は、1年を通してきた結果、栽培等についてある程度目途がついたのと、販売先として地元生協との販売契約がついたことから、徐々に栽培キットを増やし、栽培種類も増やすことで、本格的に地元登別の野菜として販売をしていけるものと思います。

ただ、全体的に販売が伸びて収益が上がっている訳でなく、各科が新商品の開発など誠意努力をしていかななくてはならないと思っています。

施設外のホテル居室清掃は、稼働が可能な利用者を増やし、現在、11名の利用者と職員2名体制で平日のみではありますが継続して行っています。利用者たちの意識も高く就労への第一段階としては、非常に適した職場だといえます。先だって2名の利用者の就労への向けての話し合いがあり、職場適応訓練制度等を利用を検討しておりましたが、パート雇用という点とまだまだ就労に向けては時間を要するという判断から、時間をかけて育成していくことに話しを（株）クリンビルと方向性を出したところです。今後においても、他の利用者も含めて就労に向けて継続して支援していきたいと思っています。

職員の研修参加は、それぞれのスキルに合わせて参加をさせ、他の職員にも伝達研修等で報告を行っています。体験学習や実習生の受入れは積極的に実施しており、養護学校や特別支援学校の生徒の体験や実習を極力受入れし、それぞれの進路の一考になればと思っています。また、専門学校や短大等の学生の学校実習も積極的に受入れをし、就職等の進路決定の選択肢の一つとなるよう障害者理解を深めていきたいと思っています。現実的に昨年、今年と1名ずつの採用に繋がっているところです。

今年度も啓蒙的な意味も含めて、地域のイベントには積極的に参加をしていますが、職員体制や利用者の参加等で、今後、参加が難しいことも考えられることから十分に検討していきながら参加していきたいと思っています。

H29年度は、一般就労した者がいませんでしたが、引き続き就労を意識した支援を続けていきたいと思っています。

## 事業の内容

日々の運営については、利用者一人ひとりが自立していけるよう、個別支援計画を作成し、定期的にモニタリングをして、職員が共通した認識のもと支援をしてきています。これらは、定期的な会議の中で検討しています。また、事前に利用者本人にも伝え一人ひとりが分かるような面談の実施に心掛けています。

作業については、昨年度と同様な体制で第一作業は、とうふ班とうどん班で製造販売を行っています。第二作業科としては、畑班と室内班で水耕栽培や下請け等の作業を行っています。施設外については、前記していますようにホテル客室の清掃を行っており、部屋数でいうと2フロアー40室前後を行っています。特に2名の男女利用者につきましては、就労できるようメニューを組みながらの支援を続けていきたいと思っています。

行事につきましては、季節行事（花見、納涼祭、忘年会）その他に日帰り研修と一泊研修を実施しています。季節行事につきましては、サポートセンター心愛と合同で行うようにし、昨年の忘年会では、楽しく交流をしていました。次年度以降も同様に合同実施をします。

## 年齢構成

H30. 4. 1現在

	男	女	合計	割合
20歳未満	0	2	2	6%
20～29歳	8	4	12	33%
30～39歳	3	4	7	19%
40～49歳	6	6	12	33%
50～59歳	2	1	3	8%
60歳以上	0	0	0	0%
合計	19	17	36	100%

## 障害程度（知的・精神）

	男	女	合計	割合
A判定	5	7	12	33%
B判定	12	8	20	56%
不明	2	1	3	8%
精神障害	0	1	1	3%
合計	19	17	36	100%

## 支給決定市町村

	男	女	合 計	割 合
登 別 市	1 5	1 1	2 6	7 2 %
室 蘭 市	3	5	8	2 2 %
白 老 町	0	0	0	0 %
苫 小 牧 市	0	1	1	3 %
千葉市若葉区	1	0	1	3 %
合 計	1 9	1 7	3 6	1 0 0 %

## 工賃実績

	平成28年度（日給支給）
平 均 額	6 4 5 円
最 高 額	1, 1 6 0 円
最 低 額	3 0 0 円

## 職員体制

職 種	人 数	区 分		備 考
		常 勤	非 常 勤	
管 理 者	1	1		Oneself 及び心愛管理者兼務
サービス管理者責任者	1	1		
職 業 指 導 員	5	1	4	
生 活 支 援 員	1 1		1 1	
目標工賃達成指導員	1	1		
バ ス 運 転 手	2		2	
事 務 員	3		3	
合 計	2 4	4	2 0	

## 4. 地域生活支援センター oneself（共同生活援助事業）

女性用の新規ホームが4月から利用開始できたことで、定員が19名から24名になりました。女性は7名で満床、男性は13名で4床が空いています。いずれのGHも夜間支援体制を整えており、緊急時の災害等に備えております。特に女性のGHについては、障害の重い方がいることで支援が一人では困難なことから、2名の夜勤体制を整備しております。また、男性の障害の重い方々の支援につきましては、奇声を発する、大声で叫ぶ、他害行為

等に及ぶなど、まだまだ安定した生活が営めない状況もあり、保護者との連携を強化し、対応していかなければならないと考えています。

生活介護事業所が開設し、GH利用者も7名が利用していることから、月とらいおんも含めて事業所間の連絡を密にして、利用者が安定した生活ができるよう配慮しております。自然災害等に対する避難訓練等も定期的の実施し、災害に対する意識喚起を常時行っています。また、GHの行事として、焼き肉やドライブ及び買物等を実施しホームの交流を図ることにつとめ、長期の休みなどには未帰省者だけで外出行事も組むなどして生活のマンネリ化をふせぐことに努めています。

## 定員数・利用者数

名 称	種 別	定 員 数	現 員 数	利 用 率
ち と せ	男性用グループホーム	5	5	100%
す み れ	女性用グループホーム	7	7	100%
あ お い	男性用グループホーム	7	3	43%
と き わ	男性用グループホーム	5	5	100%
合 計		24	20	83%

## 年齢構成

	ちとせ	すみれ	あおい	ときわ	合計(人)	割合
20歳未満		1			1	5%
20～29歳	1	2	1	1	5	25%
30～39歳	3	2	1	1	7	35%
40～49歳	1	2	1	1	5	25%
50～59歳				1	1	5%
60歳以上				1	1	5%
合 計	5	7	3	5	20	100%

## 障害程度区分

	男(人)	女(人)	合計(人)	割合
区分 6	1	1	2	10%
区分 5	4	1	5	25%
区分 4	4	2	6	30%
区分 3	3	2	5	25%
区分 2	1	1	2	10%
区分 1				
合 計	13	7	20	100%

## 職員体制

職 種	人 数	区 分		備 考
		常 勤	非常勤	
管 理 者	1	1		月とらいおん及び心愛管理者兼務
サービス管理責任者	1	1		
世 話 人	12	3	9	
支 援 員	14	1	13	

## 支給決定市町村

	男 (人)	女 (人)	合計 (人)	割 合
登 別 市	7	2	9	45%
室 蘭 市	1	3	4	20%
白 老 町	1		1	5%
苫 小 牧 市		1	1	5%
大阪市港区	1		1	5%
大阪市西区	1		1	5%
春日部市	1		1	5%
さいたま市		1	1	5%
千葉市若葉区	1		1	5%
合 計	13	7	20	100%

## 利用料金

項 目	ちとせ・ときわ・すみれ	あおい
家 賃 (月額)	30,000円	35,000円
光熱水費 (日額)	550円	
食材料費 (1食)	朝 食	200円
	昼 食	300円
	夕 食	450円
日用品費	実 費	
その他の日常生活費	実 費	
	※利用者の希望に基づき、提供するサービスにかかる費用です。 支払いを求めるときは、その都度、事前に説明し同意を得ます。	

## グループホームの主な日課（平日）

6：00	起床・洗顔
7：00	朝食・出勤準備
8：40	出勤
9：00⇒15：00	月とらいおん及び心愛で作業
15：30	帰宅
16：00⇒18：00	入浴・洗濯等
19：00⇒22：00	自由時間・就寝

## 5. サポートセンター心愛（生活介護事業）

昨年、市内唯一の生活介護事業所「みなすぽ登別」が運営危機から閉鎖するという話しを受け、利用している方々の行き場が無くなるという現実を鑑みみて、また、月とらいおんの利用者に多くの就労支援施設では負担が大きいと感じられる人たちが多くということなどを考慮し、前年度より生活介護事業所の開設することが緊急の課題でもあったことから、前者の業務を引き継ぐかたちで事業所を平成29年10月に開設しました。

開設当初は、登録利用者数は14～15名でしたが、当初の採算ペースの1日あたりの利用者数10名を確保できており、順調なスタートといってもいいかと思えます。就労Bの月とらいおんから移動した利用者は、GHの利用者が殆どですが、他の利用者さんは、自宅からの通所者で入浴を中心に利用したいという方が多く、現状での1カ所の入浴設備では利用に限界があり、また、車イス等の利用者の入浴は職員の全面介助での対応が必要で、腰痛対策等の面でも職員に係る負担は大きいことから早急の対策をとる必要があると懸念していましたが、心愛は賃貸での開設ということもあり、浴室の増設整備にはそれなりの制限がありましたが、家主の上田商会に打診したところ承諾を得ることができたことから、急遽、北海道共同募金会に整備事業の補助申請をしていたところ、さる、4月5日に登別共同募金会より浴室の補助決定の連絡がありました。

この整備により浴槽が2カ所になること、合わせて、別途車イス用の電動リフトの整備を行うことで、職員の負担も軽減でき、現状の入浴時間等も含め大幅な改善に繋がるものと思えます。

次に、心愛の活動内容ですが、心愛は単に生活全般に赴きを置く支援だけでなく、何らかの生産活動に参加するというのも主体的に考えての活動を行っています。具体的には、手作り雑貨の製作、下請けなどの軽作業（ブックオフ、アイスジャパン等）を行っています。ただ、安定した形での仕事量ではないため、途切れることもしばしば有るので苦慮しているところです。その他としては、ウォーキングを取り入れたりし、身体を動かすことも全体的に主として考えています。障害の重い方、精神障害の方等々、多種多様な利用者がある中、出来る限り一人ひとりの希望に沿った支援をしていかなければならないと思



っています。

利用契約者が少しずつ多くなってきており、車両、支援員の配置など適時に整備していかなければならないと思っています。

大きな行事（忘年会）については、月とらいおんとの合同行事として行い、次年度以降は、花見、納涼祭、忘年会を合同で実施し、交流を深めていきたいと思っています。

## 年齢構成

H30. 4. 1現在

	男	女	合 計	割 合
20 歳未満	3	0	3	16%
20～29歳	4	0	4	21%
30～39歳	4	3	7	37%
40～49歳	1	0	1	5%
50～59歳	0	0	0	0%
60～69歳	0	3	3	16%
70歳以上	1	0	1	5%
合 計	13	6	19	100%

## 障害程度（知的・精神）

	男	女	合 計	割 合
A 判定	10	2	12	63%
B 判定	1	0	1	5%
不 明	1	4	5	26%
身体障害	1	0	1	5%
合 計	13	6	19	100%

## 支給決定市町村

	男	女	合 計	割 合
登 別 市	4	4	8	42%
室 蘭 市	5	1	6	32%
白 老 町	1	0	1	5%
大 阪 港 区	1	0	1	5%
大 阪 西 区	1	0	1	5%
春 日 部 市	1	0	1	5%
さいたま市	0	1	1	5%
合 計	13	6	19	100%

## 職員体制

職 種	人 数	区 分		備 考
		常 勤	非常勤	
管 理 者	1	1		月とらいおん及び Oneseif 管理者兼務
サービス管理責任者	1	1		
生 活 支 援 員	3	1	2	
看 護 職 員	2	1	1	